

日中社会学会ニューズレター

Japan-China Sociological Society Newsletter

No.73 2015.05

目次

日中社会学会第27回大会	
大会開催にあたって	1
お受けするにあたって(開催校シンポジウム及び特別講演の紹介)	2
シンポジウム(2)のご紹介	3
自由報告セッションの紹介	4
大会プログラム	5
在外会員レポート	
中国女子大生のスケッチ	10
珠江デルタ地域の墓地事情	11
新入会員の声	12
事務局からのお知らせ	14
事務局からのお願い	14

■日中社会学会第27回大会開催にあたって

日中社会学会会長

首藤 明和(長崎大学)

日中社会学会第27回大会が6月6日と7日、北海道大学にて開催されます。日中社会学会大会の歴史のなかで初の北海道開催となります。大会実行委員長の櫻井義秀先生をはじめ、開催に向けてご尽力をいただいております関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

このニューズレターでお届けしますように、今大会のプログラムもまた、たいへん充実した内容となっております。会員諸氏の知的好奇心を大いに揺さぶってくれるものと信じております。

大会恒例の記念講演ですが、「身体」をテーマとして、北海道大学の応雄教授、武田雅哉教授にご講演をいただくことになりました。文学論、映画論、表象論などのアプローチから、応先生は「不断の生成」、武田先生は「中国のかわいいもの(異なるもの)」などをキーワードにして、思いもよらぬ刺激に満ちた世界を提示

してくださるのではないのでしょうか。また、主催校企画のシンポジウムでは、「現代アジアの宗教文化」について、「宗教」と「社会」の目まぐるしく動く境界に焦点が置かれ、ここから「宗教」の「社会参加」について、その多様な可能性が論じられることと思います。一方、学会企画のシンポジウムでは、「身体」を通して「中国らしさ」を構成するものがいったいどのように捉えられるのか論じられることでしょう。そして、専門部会の自由報告ですが、実に多彩な領域と問題関心のなかで、これまでの大会のなかでも最大規模の報告が行われる予定です。昨今、国際情勢についてはいろいろと言われてはおりますが、本大会の研究報告からは、学术交流の確かな歩みと力強さを感じずにはおれません。

本大会での研究交流が、会員諸氏にとりまして有意義な時間になりますよう、また学術の一層の発展と、アジアひいては世界の平和に寄与することを願ってやみません。多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第27回大会 北海道大学 札幌キャンパス(札幌駅から正門まで徒歩約7分)

平成26年6月6日(土) 13:00~20:30(受付 12:30)

6月7日(日) 9:00~17:15(受付 8:45)

大会参加費 会員2000円、非会員3000円(ただし学生は1000円)

懇親会 一般・学生 2000円

※ 出欠確認はがきは、開催校準備のため、5月22日(金)までに投函をお願いします。

■第27回大会をお受けするにあたって
(開催校シンポジウム及び特別講演のご紹介)

第27回大会実行委員長

櫻井義秀 (北海道大学)

この度北海道大学において日中社会学会第27回が開催されます。6月初旬の北海道、札幌は梅雨もなく、ドライで暑からず寒からず、1年で最も過ごしやすい季節です。

北海道大学文学部には、伝統的に中国文化の研究者が多く、中国文化論講座(中国哲学・中国文学)、中国史研究者が多い東洋史学講座、漢語研究者のいる言語情報学講座、中国映画研究者がいる映像・表現文化論講座があります。

今回の開催校記念講演では、中国文化論講座から武田雅哉教授、映像・表現文化論講座から応雄教授に、中国の絵画や映画に見る文化のかたちを論じてもらおうと考えております。

また、開催校シンポジウムでは、現代東アジアの宗教文化研究と題して、櫻井義秀と川田進会員、藤野陽平氏の三名が発表します。3名とも東アジア、中国に関わる近刊の書籍がありますので、ご紹介しておきます。

川田進『東チベットの宗教空間：中国共産党の宗教政策と社会変容』北海道大学出版会、2015年。

藤野陽平『台湾における民衆キリスト教の人類学—社会的文脈と癒しの実践』風響社、2013年。

櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編『アジアの社会参加仏教—政教関係の視座から』北海道大学出版会、2015年。

さて、北海道大学は札幌市の中心に位置し、札幌駅北口を7,8分ほど歩けば正門、そこから同じく、7,8分、構内の中央ローンやクラーク像を眺めながら歩いてもらうと会場の人文社会科学教育棟に至ります。6月6,7日を含む週末は北海道大学の大学祭が開催されており、多少賑やかではありますが、食事は世界各国の留学生が出店する模擬店や大学生協で取っていただけます。この時期

の宿泊はハイシーズンに入っておりますので、お早めに予約されたらよいでしょう。千歳空港は全国の主要な空港と直行便もあり、空港から札幌駅までは快速エアポートという直通運転の電車が35分で結びます。懇親会では北海道の海の幸、山の幸を堪能いただこうと思いましたが、予約していた学内のレストランが突然廃業することになり、急遽学会会場でのケータリングサービスによる簡単な立食パーティーに変更しました(懇親会費は2千円ですのでビールと軽食程度です)。食の醍醐味は、懇親・情報交換会の後、みなさまご自身で探訪していただくこととなります(札幌駅の周辺やすすきには、北海道らしい海鮮、ジンギスカン、各種の飲食店があります)。人数予約の都合がありますので、懇親会参加の有無を大会参加と同時にお知らせください。

こんな事を申し上げるのも心苦しいのですが、みなさまご存じのように国立大学法人では会場費が徴収され、何の財政的支援も受けられませんので、大学院生のボランティアと一緒に簡素な大会運営をさせていただきます。水・お茶・コーヒーの自販機も各処にありますので、建物のラウンジ等で各自ご利用ください。

会場は3箇所用意してあり、AV機器は、DVD、旧式ビデオ、プロジェクターが使用可能です。DVDはフォーマットによって起動しないことがありますし、マックのパソコンご使用の方も、事前に動作確認をお願いします。ウィンドウズ・マシンは3台分設置しておきます(メモリ・スティックの持参で可能)。

院生の配置は、受付、会場係など最低限の人数しかおりませんので、司会の先生方には時間管理他進行をよろしく願いいたします。

最後になりますが、みなさまのご来場を十数名の大学院生(半数は中国からの留学生です)と共に主催校として心待ちにしております。お気を付けていらしてください。

■第27回大会シンポジウム(2)

「中国の身体とチャイニーズネス」のご紹介

池本淳一 (早稲田大学)

普通、「中国らしいもの」として思い浮かべられるのは、万里の長城、兵馬俑などの観光地や水墨画・陶磁器などの文物、あるいは中華料理やパンダなどの有形無形の文化財であろうか。

それらは文化・習慣を通じた「中国らしさ」を再生産させつつけているが、もっとも「中国らしさ」を体現しているのは中国に生きる人々、いわゆる「中国人」であろう。しかし近年の歴史学の成果によれば、近代以前の人々にとっては「蘇州人」「～家人」といった地方・宗族の範囲を超えたアイデンティティは希薄であり、国家という範囲に成立する「中国人」という概念は、人種論やナショナリズムを通じて形成されたきわめて近代的な概念であるという。

それではそれら近代的な「借り物」でよそよそしい概念は、どのような過程を経て人々に受容されることで、自分の身体が見ず知らずの人々と同じ「中国の身体」であるというゆるぎない身体感覚を作り出していったのであろうか。

本シンポジウムでは、身体をめぐる歴史社会学的な研究報告を通じて、言説レベルでの「中国」がいかにして身体化され、身体へのまなざしを通じて変容していったのか、を考えてみたい。加えて、今世紀の社会科学においておそらくもっとも重要なテーマの一つとなるであろう「ナショナリズム」や「人種」に対して、中国研究の知見からの提言を行っていきたいと考える。すなわち、人種やエスニシティを考える前提として、まずはそもそもなぜある身体がある文化・民族を体現するようになったのか、その歴史のかつ政治的な過程を問うていきたいのである。

具体的には、本論では以下のパネリストをお迎えして、身体のさまざまな局面がどのようにして「チャイニーズネス」の構築と再編成に貢献して

いったのか、またその構築過程がどのような「チャイニーズネス」の問い直しを導くのか、について考察していきたい。

報告①

赤江達也 (台湾・国立高雄第一科技大学)

「忠烈祠は何を表象しているのか——戦後台湾の官立追悼施設をめぐって——」

概要：忠烈祠は、1930年代に中国大陸で制度化された「中華民国の官立追悼施設」である。抗日戦争（日中戦争）の中で増設され、1945年の時点で中国大陸には766の忠烈祠が存在していた。そして、台湾の「光復」以後、台湾にも20余りの忠烈祠が設置された。こうした歴史的経緯ゆえに、忠烈祠は、戦後台湾において「外来の」追悼施設という特異な性質をもつことになる。

戒厳令下の台湾において、忠烈祠は「中華民国の正統性」を表象する建築物となる。だが、民主化とともに変化が生じる。桃園忠烈祠における桃園神社の建築保存運動、嘉義忠烈祠における原住民の神話を模した射日塔の建設など、地方の忠烈祠の中に「台湾的」な要素が混在するようになる。また、1990年代には「烈士」の範囲が拡大され、「中華民国の正統性」とは直接関わりのない死者が祀られることになる。本報告では、忠烈祠の建築や「烈士」の規定などに注目しつつ、忠烈祠が何を表象してきたのか、その変遷について考察したい。

報告②

穂山新 (筑波大学)

「災害体験とチャイニーズネス——1920年の華北大飢饉を事例に——」

概要：本報告は1920年に発生した「華北大飢饉」を事例に、この大災害を克服しようとする過程で出現した相互扶助や共同性の思想および政策・運動と、そこに見られる中国的特性（チャイニーズネス）が何かを歴史社会学的に検討するものであ

る。

1920年の華北大飢饉は、1919年の五四運動の前後に都市部で出現かつ成長したジャーナリズムや学生組織が、積極的に被災地に赴いて大規模に調査・報道が行われた中国で最初の事例であり、ここでは「社会」や「愛国」に対する認識の「空虚さ」への深刻な自己批判が語られていた。それに加えて、災害体験の中で偶発的に生まれた無数の利他的な行為や連帯感を、制度化・日常化していく様々な試行錯誤が出現したことも、この大災害における新しい現象であった。本報告では、前者については最も熱心に華北大飢饉の特集報道を行った北京の日刊紙『晨报』の記事を、後者については華洋義賑会の活動および協同組合論者である于樹徳の思想を、それぞれ取り上げて検討していく。

これらの報告に加えて、シンポジウムでは台湾・中国文化大学の中国武術史研究者・莊嘉仁副教授をお迎えし、「戦後台湾における国術運動の展開とグローバリゼーション（仮）」に関する発表を行っていただく。

明清時代、武術の担い手の多くは農民層や都市の庶民階層であり、文化人や官僚からは「粗野な習俗」として疎んじられてきた。しかし民国期に入ると、それは近代国家・中華民国を代表する国民文化として愛国主義的な知識人や軍人からにわかに脚光を浴びた。結果、武術の正式名称が「国術」に改められ、さらには武術の近代化と国民普及を目指す半官半民組織「中央国術館」が設立された。これらの通称「国術運動」は、日中戦争の激化によって志半ばで頓挫してしまっただが、この「国術」概念と「国術館」の多くは、戦後は国民党と共に台湾にわたり、台湾にて「中国」の武術として発展していくこととなる。

莊副教授によれば、この台湾における国術運動

の継承は、台湾の不安定な国際政治上の位置づけや根強い武術蔑視により、紆余曲折を経ることとなったという。さらにそこに「台湾とは何か」をめぐるより大きなナショナル・アイデンティティ問題が重なり合うことで、国術を問うことが、そのまま台湾を、そして「中国」を問うことへと直結していったという。

報告③では、莊副教授にこの複雑で多層的な文化アイデンティティをめぐる戦後国術史を解説していただくことで、どの「身体」が「中国」を代表するのか、そしてそこで体现される「中国」とは何なのか、を問うていく。

以上、「英雄たちの身体」「死にゆく身体」「戦う身体」といったさまざまな身体の扱われ方や描かれ方を通じて、本シンポジウムではチャイニーズネスを身体の視点から考察していきたいと思う。

■自由報告のセッション紹介

大会担当理事

坂部 晶子（名古屋大学）

ここ数年の大会では、自由報告は2日目の午前中に開催されることが多かったようですが、今年度は準備の都合もあり、1日目（15:20～17:20）と2日目（12:30～14:30）の二回に分けて行います。例年と若干異なりますので、お間違えなきよう、お願い申し上げます。

今年の大会は、自由報告の申し込みを23報告、総勢25名の方からいただきました。内容も多岐にわたっており、中国社会の変化の激しさとそれを捉えようとする多様な取り組みを反映しているように感じます。多くの方がたご参加と活発な意見交換を期待しております。

日中社会学会第27回大会プログラム

開催日：2015年6月6日(土)、7日(日)

会場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟2階 W201-202, W309

(注) プログラムは一部変更となる可能性があります。

当日会場にて配布される資料でご確認ください。

6/6(土)		6/7(日)	
		845	受付
		900	開催校シンポジウム 「現代東アジアの宗教文化をどうとらえるか」
1100	理事会	1130	理事会
1230			
1230	受付	1225	
1300	開会式	1230	自由報告Ⅱ (session D, E, F)
1305	記念講演 「中国の海外・映画に見る文化表象」 1 現代中国映画の身体と空間 2 中国乳房文化論	1430	シンポジウム(2) 「中国の身体とチャイニーズネス」
1535		1440	
1550	自由報告Ⅰ (session A, B, C)	1710	
1750		1710	閉会式
1755	総会		
1830			
1840	懇親会		
2030			

6月6日(土)

11:00~12:30 理事会

W309 室

12:30~ 受付開始

北海道大学 W 棟 W201-202 室

大会参加費：会員 2000 円、非会員 3000 円 (ただし学生は 1000 円)

懇親会費：学生・一般 2000 円

13:00~13:05 開会式

W201-202 室

開催校挨拶：櫻井義秀 (北海道大学)

会長挨拶：首藤 明和 (長崎大学)

13:05~15:35 記念講演

W201-202 室

司会 櫻井義秀
応雄 教授 「現代中国映画の身体と空間」
武田雅哉 教授 「中国乳房文化論」

15:50~17:50 自由報告 I

W201-202, W309 室

セッション A

W201 室

司会 李妍焱 (駒澤大学)

「四川大地震後の被災地観光に関する研究」

高欣 (大阪大学)

「中国の災害ボランティア組織の現状について」

—四川大地震に設立されたボランティア組織を事例に—

孫佳怡 (大阪大学)

「四川大地震における中国社会の復興対策と特徴の課題」

大谷順子 (大阪大学)

「陳情行動の日中比較—ダム事業にともなう立ち退き住民の訴えを中心として—」

浜本篤史 (名古屋市立大学)

セッション B

W202 室

司会 奈倉京子 (静岡県立大学)

「中国人留学生の帰国後の労働・生活・意識—山東省を中心として—」

張歆 (神戸学院大学)

「高等教育からみた中国社会の変化」

李尚波 (桜美林大学)

「中国人留学生の日本企業就職をめぐる問題に関する一考察—就労観に着目して—」

門永美保 (京都女子大学)

「中国で働く台湾人とその子どもたちの越境移住動機・意識・キャリア戦略」

—台商子女学校での調査を事例に—

金戸幸子 (藤女子大学)

セッション C

W309 室

司会 鈴木未来 (新潟医療福祉大学)

「中国の一人っ子政策の規制緩和—一事例研究からみる人々の反応—」

王武雲 (岐阜市立女子短期大学)

「香港における宗教慈善団体による高齢者サービス」

—香港明愛による『寧安服務』を事例に—

伍嘉誠 (北海道大学)

「現代中国におけるキリスト教人口の拡大と治療信仰」

—黒竜江省農村の A 教会を事例に—

佐藤千歳 (北海商科大学)

「中国における高齢者施設入居者の生活環境及び生活意識に関する研究」

—大連市での調査を中心に—

李東輝 (大連外国語大学)

17:55~18:30 総会

W201-202 室

18:40~20:00 懇親会

W201-202 室

6月7日(日)

8:45～ 受付開始

北海道大学 W棟 W201-202 室

9:00～11:30 開催校シンポジウム

W201-202 室

「現代東アジアの宗教文化をどうとらえるか」

司会 櫻井義秀 (北海道大学)

報告1 櫻井義秀 (北海道大学) 「アジアの社会参加仏教—政教関係の視座から」

報告2 川田進 (大阪工業大学) 「チベットの宗教空間」

報告3 藤野陽平 (東京外国語大学) 「戦後台湾社会における台湾語教会と政治との関係性—二二八事件から太陽花学生運動まで」

コメンテーター 中村則弘 (愛媛大学)

11:35～12:25 理事会

W309 室

12:30～14:30 自由報告II

W201-202, W309 室

セッションD

W201 室

司会 小林一穂 (東北大学)

「村落共同体と農民の協同—江蘇省南部と河南省南部の村落を事例に」

羅鳳云 (中国社会科学院)

「中国海南島の国有農場における自営経営の展開

—黎族集落の構成と熱帯果樹・反季節性野菜の導入」

朴紅・坂下明彦 (北海道大学)

「出稼ぎ農村における農地利用形態の変化とその要因分析

—山東省徳州市の農村調査から」

張万超 (広島大学)

「中国の人口移動から生まれた社会問題—香港の実態調査に基づく」

聶海松・黄衛鋒 (東京農工大学)

セッションE

W202 室

司会 浅野慎一 (神戸大学)

「日本統治時代への肯定的評価に対する族群および社会階層の影響

—パス解析を用いたコーホート別分析」

寺沢重法 (北海道大学)

「モンゴルの福音派キリスト教—文脈化と民族主義のあいだ」

滝澤克彦 (長崎大学)

「中国人の政治意識と価値観—『チャイニーズネス』調査から」

石井健一 (筑波大学)

「現代日本における排外主義の運動と表象—『在特会』と「行動する保守」を中心に」

宮城佑輔 (早稲田大学)

セッションF

W309 室

司会 松木孝文 (大同大学)

「中国におけるインターネット上の言論制御に対する研究」

- 石巍（愛知大学）
「中国都市部住民の自国評価の現状及びその規定要因に関する研究」
- 江暉（東京大学）
「中国での海外ドラマの放送に関する考察
—1980年～1995年の日本ドラマを中心として」
- 欒文婧（立命館大学）

14:40～17:10 シンポジウム（2）

W201-202 室

「中国の身体とチャイニーズネス」

司会 池本淳一

報告1 赤江達也（台湾・国立高雄第一科技大学）

「忠烈祠は何を表象しているのか——戦後台湾の官立追悼施設をめぐって——」

報告2 穂山新（筑波大学）

「災害体験とチャイニーズネス——1920年の華北大飢饉を事例に——」

報告3 莊嘉仁（台湾・中国文化大学）

「中國武術現代化與全球化的衝擊與轉變：以台灣的國術運動為例」

コメンテーター 前野清太郎（東京大学）・坂部晶子（名古屋大学）

17:10～ 閉会式

W201-202 室

大会担当理事：池本淳一（早稲田大学）・坂部晶子（名古屋大学）

開催校理事：櫻井義秀（北海道大学）

■大会出欠確認のお願い

同封の葉書にて、大会出欠のご予定をお知らせください。52円切手をご用意いただき返送をお願いいたします。開催校の準備のため、5月22日（金）までに投函をお願いいたします。

■宿泊施設及び食事について

北海道大学は札幌駅から歩いて7分のところにあり、札幌市内は宿泊施設が多数あります。各自でお手配ください。食事は、学会当日中は大学祭の期間中であり、出店・生協食堂など使えますのでご利用ください。

■大会連絡先

〒060-0810 北海道札幌市北区北十条西七丁目
 北海道大学文学部社会システム科学講座 寺沢重法
 Mail: shterazawa@let.hokudai.ac.jp

■北海道大学へのアクセス ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

■大学入り口から会場までの道順



■在外会員レポート

中国女子大学生のスケッチ

—自立の道を模索中の若者—

鄭楊（哈爾濱師範大学）

中国の女性は、強い。

このイメージは、新中国が成立してから、定着しました。しかし、実際の状況はどうでしょうか。

教師という職業は、教えがてら、よく学生の相談相手になることがあります。それで、身近に今の若者の変化を、ひそかに、じっくり観察することができます。

ここで、私のいくつか観察したことを、紹介します。

まず、2007年の春、長い留学を終えて、私が中国の哈爾濱師範大学に赴任してまもない時のことです。授業中によく目につく美男美女のカップルがあって、その女の子は、ある日私の研究室へ相談しに来ました。

「今は、彼との非常によい関係をもっているが、でもこれから結婚して、子どもを作って、私は老けていくが、彼はきっと仕事において一人前になるし、もっと人気になるから、心配です……」

80年代生まれの中国新人類とも言われる女の子の心配事が、新中国が成立してから作り上げられた自立した強い女性のイメージとどうも離れかけているため、印象に残りました。

そして、近年中国女子大学生の就職難についての調査を行うために、インタビューで知った女子大学生の性別意識も、私を驚かせることも多かったです。なんと80%以上の女子学生は仕事と家庭を両立より家庭にウェイトをおく、とくに子どもが生まれたら、仕事に対して落ちこぼれにならない程度でよいという答えは、代表的です。

ところが、もっと面白いことは、女子大学生

にとって、仕事の持つ意味が、自分の能力を極めることより、よい結婚相手、よい結婚生活を保障するものだと思っているようです。

「女性って、やはり専業主婦になるのは、いけない、そうなると、社会から隔離される可能性が大きいし、夫も妻の視野が狭いという理由で、妻を嫌うことになるかもしれないから、仕事を一応持った方がよい」

「私はバリバリ仕事をする女性になりたいです、だから結婚したら、仕事に70%、家庭に30%という割合にします……、女性って、自分が優秀にならないと、優秀な相手が見つかりにくいからね……でも40歳になると、家庭に70%、仕事に30%というウェイトにしますよ、女性ってやはり家庭は大事です」

このように、専業主婦になることは、女子大学生の間に、あまり人気ではありませんが、仕事をもつのは、どうも、会社、企業に全力を注ぎキャリアを積むことより、仕事を持つことでうまい結婚生活につながることを望んでいるようです。そして、このような考えが、女子大学生の中で一般的なことに、なおさら、驚きました。

そのために、女子大学生の就職難についてのインタビュー調査を行いながら、もし私が経営者なら、男子学生と女子学生のどちらを採るのかな、と考え始めました。そして、優秀な女子学生がなかなか内定をもらえず、えっ、と思う男子学生がすぐ内定をもらった事実の裏に少し近づいたような気がします。

男女平等、「女性には経済的自立がなければ本当の自立がない」という有名なスローガンを、新中国が成立してからずっと挙げてきました。しかし、それとは裏腹に、今でも、「男は外、女は内」という性別役割分業は、中国社会に根強く残っているようです。こうした社会世論のなかで、大学生の間に、「良い仕事より良い嫁ぎ先」という話も流行になったくらい、女子大学生さえ仕事か家庭かという二者択一の窮境

におかれ、自立の道を模索中しているようです。

こう綴っていくと、中国の女性には、まさに弱くて暗いイメージを与えてしまうようですね。そうでもないですよ。イキイキ、したたかに生きている女性は少なくないのです。しかし、その一方、家庭と仕事のどちらかを、選択するかという窮境に陥る時、社会的な支援が少なく、家庭のために、仕事をもっと極めたい自分を犠牲する女性も少なくないのです。

こういう現実をみると、「上から下へ」という中国女性解放運動の特徴の深い意味を感じます。つまり、女性自身によって、解放を求めるものではなかった中国の女性解放運動は、今でもその影響が続いています。言い換えれば、計画経済の時期、国家の保護のもとで、女性は「強く」生きられるようですが、市場経済を導入した今の中国では、国の力が弱くなり、女性は強く生きていくのは、難しくなっていると思います。

そのために、今こそ、中国女性にとっては、「上から」ではなく、「下から」模索しながら、自立の道を拓く時期が、やって来たのでしょうか。

珠江デルタ地域の墓地事情

伊藤 麻沙子

(在広州日本国総領事館

専門調査員)

日中社会学会の皆様、こんにちは。広州に滞在中の伊藤です。今回は珠江デルタ地域の墓地事情について通信したいと思います。

今月6日は中国のお墓参り、清明節でした。周知のように、儒教の伝統がある中国では「孝」を重んじる文化があり、お葬式や埋葬方法、お墓を重視する傾向があります。高齢化や都市化が急速に進む中国（特に都市部）では、死者を祀る墓地の確保が問題になり始めているようです。

2012年4月1日のチャイナネットに、上海市の墓地経営用地の開発に関するニュースが掲載されていました。上海市では、約30年前から埋葬地の効率的な使用に力を入れてきたそうです。その結果、約150～200ムー（1ムーは約667m²）の節約に成功しました。2010年～2012年頃の新規埋葬量は「80・19・1」（墓碑の代わりに木を植える樹葬や花葬を含む「土葬」80%、高層建築の安置室に納骨する「塔葬」や骨壺を壁に埋め込む「壁葬」等19%、海に散骨する「海葬」1%）となっています。土葬以外は墓地の節約になるため、上海市では「70・28・2」を目標にしており、土葬の場合は、0.6 m²以下の小さなお墓の購入を奨励しています。

では、2013年の都市化率が全国1位（約67%）の広東省（とりわけ珠江デルタ地域）はどうなっているのでしょうか。清明節明け7日付の『南方都市報』（A06～09面）に同地域の墓地事情に関する特集記事が掲載されていましたので、ご紹介いたします。

同地域内の墓地の価格は、高額から低額まで大きく3段階に分けられます。高額地域は広州市と深セン市、次が珠海市と仏山市、そして低額地域が惠州市、東莞市、中山市、江門市となっています。最も高額な墓地は深セン市の龍山霊園が販売するもので、11万元/m²（約209万円、1元=19円で換算）と驚きの価格です。なお、墓地には営利目的の霊園と公益目的の霊園がありますが、ここで取り上げるのは前者の場合です。

【広州、深セン】

広州では3万～10万元/2m²の墓地が人気です。墓石、装飾的な石像（獅子像等）、20年間の管理費を含めた14万～15万元/2m²の高額なものも存在します。また、たとえばバイクに乗った人を象った石像のように、かなり個性的な墓石もあるのですが、このような

「芸術的な墓石」をあつらえたお墓は面積が3~4m²で、更に値が張ります。

深センでは火葬後に骨壺を保管する場合の最低費用は225元、最高は約3万元です。土葬で墓地を購入する場合の最低費用は1万元、最高は約33万元となっています。

【珠海、仏山】

珠海では7000~1万元/m²の墓地が一般的で、面積は1.8m²、3m²、4.2m²の3種類から選択することが多いようです。

仏山で一般的なのは1万~4万元/m²の墓地ですが、特徴的なのは仏山戸籍の人が購入する場合と、そうでない人(外地人)が購入する場合の金額が異なる点です。たとえば、順徳にある仏山市最大の霊園では、仏山戸籍の人が最も良い墓地を購入するのに約12万元/2m²払うところ、外地人はその2倍(約24万元)払わなければなりません。

【惠州、東莞、中山、江門】

この4市の墓地の価格は比較的low額です。惠州では平均4000元/m²で、最高額は3万元/m²(総面積12m²でトータル36万元の墓地)となっています。最高額の墓地は観光スポットに存在し、珠江デルタ地域の「お金持ち(土豪)」をターゲットに販売されています。

中山は3000~8万元/m²。江門は価格が統一されており、4000~5000元/m²、1万元/m²前後、2.9万元/m²の3種類があります。東莞の最低価格は182元/m²、最高額は約15000元/m²です。最も高価な墓石をあつらえた場合、トータルで最高額の墓地は11.5万元となっています。

参考までに珠江デルタ地域の2014年の様式別埋葬量を見てみますと、「85・10・3・2」(火葬による「骨壺保管」85%、「土葬」10%、「海葬」3%、「樹葬・花葬・壁葬等」2%)と

なっています。同地域で「土葬」が最も多いのは仏山市です。広州や深センは10%前後ですが、仏山市は30%以上で、「土葬」を選択する人が多い傾向にあります。

中国では2014年3月に(結果的に土地転がりに終わり、地方の腐敗官僚を多数生み出した)旧都市化計画を改め、人・産業・自然環境の共存を目指した新都市化計画が発表されました。そして、同年12月末に同計画の総合モデル地区として、広東省からは広州市、東莞市、惠州市、深セン市(光明地区)が選ばれました。これを受けて、2020年までに広州市では150万人、東莞市では90万人の出稼ぎ労働者(農民工)に都市戸籍を与える予定です。これにより、低価格住宅が提供されたり、様々な社会保障が受けられるようになって、都市での安全な生活が約束されるようになれば、それは良いことなのではないかと思えます。しかし、その後には今度は「亡くなった場合の行き場」が問題になってくるのではないのでしょうか。珠江デルタ地域の墓地事情を見ていて、何となくそう思われました。

■新入会員の声

馮 川 (ふう せん)

所属：東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程
研究領域：農村社会学

会員の皆様、はじめまして。この度、新しく入会させていただきました、馮川と申します。私は中国湖北省武漢市の出身であり、同市にある華中科技大学の中国郷村治理研究中心(中国農村ガバナンス研究センター)の修士課程を修了した後、東京大学大学院の博士課程に在籍しました。同センターはフィールドワークの経験的研究方法を重視し、日本側の

研究蓄積と共通する点が少なくありません。来日後、『日中社会学叢書』をはじめとする先行研究から大変有益な視点と見方を頂いておりました。

研究テーマに関して、私は中国農村における「高齢者処遇の在り方、また、それがどういうふうな社会関係、とくに家族関係のなかで行われるべきものか」という問題に焦点を当て、老年に関するライフ・サイクルを向老期（中年期から老年期への移行期）、生産老年期（働ける老年）、非生産老年期（一人前の労働が期待できない老年）、死亡という4つの段階、考察対象を公的法律や施策（社会福祉、法律など）、地域社会（施設養老、高齢者に関する社会組織、同輩団体など）、家族（世代間交代、扶養、孫の教育）、個人（生きがいの創出、自殺、消費など）という4つのレベルに分けて、歴史的に高齢者処遇を検討していきたいと考えています。どうぞみなさま、ご指導のほどよろしくお願い致します。

滝澤克彦（たきざわかつひこ）

所属：長崎大学多文化社会学部

研究領域：宗教学

会員の皆様、はじめまして。この度、新たに入会させていただきました、長崎大学の滝澤と申します。専門は宗教学で、モンゴル国をフィールドに社会主義体制崩壊以降の宗教状況、とくに福音派キリスト教の流行について研究してきました。また、東日本大震災以降は、地域の復興と祭礼行事の関係性に関する調査なども行なっております。

日中社会学会では、モンゴルや日本と中国の比較および影響関係などについて、いろいろと勉強させて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

【主要業績】『無形民俗文化財が被災すること』(共編、新泉社、2014年)、『越境す

る宗教 モンゴルの福音派』(新泉社、2015年)

赤江達也（あかえたつや）

所属：台湾・国立高雄第一科技大学 応用日語系 助理教授

研究領域：歴史社会学、宗教社会学

台湾の高雄で働いております、赤江と申します。筑波大学の博士課程を修了した後、日本学術振興会特別研究員（PD、慶應義塾大学）を経て、2008年2月に台湾・高雄での現職に着任いたしました。

中心的な研究テーマは、近代日本のキリスト教です。とくに内村鑑三にはじまる無教会キリスト教の研究をしてきました。その成果としては、『「紙上の教会」と日本近代——無教会キリスト教の歴史社会学』(岩波書店、2013年)を刊行いたしました。

現在は、上述のテーマを継続するかたわらで、中華民国／台湾の官立追悼施設・忠烈祠の研究を進めています。このテーマは、東アジアにおける慰霊・追悼の比較研究の一環です。その他、東アジアのキリスト教交流史、東アジアにおける宗教言説の編成といったテーマに関心をもっています。

今後、学会の皆様からのご指導・ご教示をいただけたら幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

森川裕二（もりかわ・ゆうじ）

所属：長崎大学多文化社会学部

研究領域：国際関係論

このたび入会させていただきました。どうぞ宜しくお願いいたします。

専門理論を社会学として中国研究に取り組んでいらっしゃる日中社会学会諸先輩と異なり、非西欧型国際関係理論をキーワードに現代アジアの地域主義を研究テーマにしていま

ました。すこし大きく考えると、広域的なアジアを対象とする国際関係論も、日中社会学研究も、冷戦の終焉を境に歴史の非常に大きな転換点を迎えているといえるでしょう。たぶん近代の生み出したさまざまな要素が変質したり、消滅したりしており、その中心に中国という国家と社会が存在するような気がします。国際政治学を中心とする国際関係理論は、20世紀初めに国際公法に始まり、数学、ミクロ経済学、社会学に影響を受けてきた学際的な学問です。日中社会学会の皆様のご研究とご指導により多くの刺激をいただき、アジアの視点から国際関係論を考えてみたいと思っています。

■事務局からのお知らせ

(省略)

■事務局からのお願い

□メルマガ届いていますか？

本学会では、メーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、不定期に「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。

2014年6月から google グループによるメーリングリストを運用しています。メーリングリストへの招待メールが届いていない方や未登録の方、また、メールアドレスに変更のあった場合は、事務局までお知らせください。

□情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

□異動、住所変更の際はご一報を！

新年度となり、異動、住所変更のあった方は、新しいご所属、メールアドレス、郵便物送付先等の情報を事務局までご連絡くださいますよ

うお願いいたします。

□会費納入のお願い

学会活動は皆さまからの会費で支えられています。会費納入をよろしくお願いいたします。一般会員 6000 円、学生会員 4000 円です。

日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

*インターネットバンキング等、銀行からのお振込みの場合は、店名、口座番号は下記になります。

店名：〇一九店 店番：019

口座番号：0161801

*海外からは paypal での納入も可能になりました。詳細につきましては、事務局までお問い合わせください。

日中社会学会ニューズレター No.73

編集：賽漢卓娜（長崎大学）

発行：日中社会学会事務局

〒186-8601 東京都国立市中2-1

一橋大学・南裕子研究室

info@japan-china-sociology.org

yminami@econ.hit-u.ac.jp

tel: 042-580-8810（研究室直通）

fax: 042-580-8799（共同研究室のため南宛を明記してください）

○日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

○日中社会学会・公式 HP

<http://www.japan-china-sociology.org/>

発行日：2015年5月